第２　教育研究団体の意見・評価

○　全国英語教育研究団体連合会

（代表者　博田　英明　　会員数　約60,000人）
ＴＥＬ　03-3267-8583

１　前　　文

今年で３年目となる共通テストでも，昨年と同様に過去のセンター試験で出題された発音やアクセント，語順整序等を単独で問う問題はなく，様々な資料や図表を通して英文を読み，知識・技能や思考力・判断力・表現力等を問う内容となっている。外国語に関する様々な知識を実際のコミュニケーションにおいて，目的や場面，状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付ける，という学習指導要領における目標を反映した出題となっている。

昨年と比較し，大問は６問と変化がなかったが，設問は37から39と２個増え，解答数は48から49と１個増えた。本文と設問及び選択肢を合わせた総語数は約6,000語で昨年と同程度ではあったが，受験者にとってはかなりの速読力が求められ，新傾向の問題も登場し，最後まで解き終えることができなかった受験者がいたことが予想される。一律な英文の読み方をするのではなく，素材となる英文の種類や示される図や資料等を理解し，目的に応じて様々な読み方をすることが要求され，設問の趣旨に合った読み方をしなければ時間が不足する。速読と精読のバランスや効果測定の観点，特に思考力を測定する観点からすると，これ以上語数を増やすことは有効でないと考える。情報量が増え，問題も複雑になり，短い時間の中で単に注意力や情報処理能力を測定するような試験に陥るのではなく，じっくりと考える時間を設定して思考力を十分に測るような試験問題に改善することが求められるのではないかと考える。令和５年度「英語（リーディング）」の本試験の平均点は「53.81点」であり，昨年「61.80点」から「7.99点」下がり，かなり難化したという結果になった。今後大問と小問ごとの正答率や弁別率，得点分布など更に詳しい分析結果の発表が待たれるところである。

２　試験問題の程度・設問数・配点・形式等への評価

令和５年度の共通テスト「英語（リーディング）」は以下のような構成であった。

大問		内容	配点	設問数	解答数
第１問	A	鑑賞する演劇について書かれたハンドアウト	10	2	2
	B	英語集中学習のキャンプのウェブサイト		3	3
第２問	A	進化した最新式の靴の広告ウェブサイト	20	5	5
	B	時間の使い方を工夫することについてのレポート		5	5
第３問	A	キャンピングクラブのニュースレター	15	2	2
	B	文化祭の出し物についてのブログ記事		3	6
第４問		効果的な学習に関する２つの記事	16	5	6
第５問		卓球部の活動で得たものについて書かれたエッセイ	15	5	9
第６問	A	収集について書かれた記事	24	4	5
	B	クマムシについて書かれた記事		5	6

第１問　資料に示された事項についての情報の読み取りとその内容の読み取りに関する設問である。設問数は５問，10点の配点で昨年と同じである。実際のコミュニケーションで出会う様々な形式の情報を読み取り，その情報を基に必要な情報を把握する力が求められる問題である。

Ａ　鑑賞する演劇についてのプリントにある情報を読み取る問題。 1 は資料下部の“Instructions”の部分に注目し，“fill in”の言い換えが“complete”と分かることで解答できるものであった。また，文中に「ハサミ」のマークがあり下の部分を切り取ることを想起させる。日常のコンテクストでよく経験する場面を想起することで内容把握が容易になる。目前の言語資料以外の情報を結び付けて読むことを求めるという作問の方向性は好ましいが，そのコンテクストの親和性が受験者によってあまりにも異ならないように留意されたい。

Ｂ　高校生向けの「夏期集中英語キャンプ」に関するウェブサイトを読み，必要な情報を読み取る力が問われている。ただし着目するべき情報が限定的であった。例えば， 4 は「キャンプ参加者は学んだことを最終日に発表する」という内容だけをつかめればよいので，キャンプの各コースが最終日にどのようなことをするかについては正確に読解することは求められてはいない。どの程度の「概要」を把握するかによって読解のアプローチは変化するので，受験者がどのような目的意識を持って英文を読み始めるかについて判断させるコストをかけることはあまり好ましくない。毎年ある程度の連続性を持たせて，設問ごとに要求する読解力には安定性を持たせてもらいたい。

第２問　資料に示された事項についての概要や要点の読み取りに関する設問である。設問数は10問，20点の配点で昨年と同じである。「事実」と「意見」の区別が問われるなど，複数の情報を客観的に判断するなど思考力・判断力が求められる出題となっている。またイギリス英語の使用も見られた。

Ａ　最新式の靴のウェブサイトの広告を読み，商品の特徴や利点をつかみ，また使用者のコメントを読み取ることが求められている。 7 は「あなたにとって商品の魅力となる点はどれか」という主旨の設問であるが，もちろん受験者本人の意見ではなく，英文から客観的に導き出される点について問われている。①，②，③とも英文中で魅力として示されている内容としては正しいが，英文における“you”は通学用の靴を探しているのであり，さらに①，③で示されている魅力は②によって得られる，という思考と判断が伴わないと正解ができない。出題の方向性としては好ましいが，受験者にとってはやや負荷が強い問題であったかもしれない。

Ｂ　「通学する時間を有効に活用する」というプロジェクトに関するリポートを読み，概要や要点を把握して，複数の情報を整理する問題であった。昨年はなかった「事実」を問う問題が出題された。「事実」を問うということは，正確な読解を基に客観的に情報を区別することが求められるため，思考と判断を伴う問題として好ましい。 13 は求められていること自体は平易ではあるが，正解を導き出すために受験者が要する作業量が多く，このような問い方でなくても，該当部の情報把握を問うことはできたと思われる。限られた時間の中で受験者の英語力を問うことになるので，作業量を要する問題についてはそのねらいを慎重に検討していただきたい。

第３問　資料に示された事項についての概要や要点を読み取り，本文に示されているイラストや情報を結び付けて読むことが問われている。今年は設問にイラストが登場し新傾向と言える。また，時系列をまとめる問題は今年も出題されている。設問数は５問，15点の配点で昨年と同じである。

Ａ　大学で行われるキャンプに参加するための「キャンプのための荷造り」についてのニュースレターを読み，必要な情報を示されたイラストと共に把握することが求められている。 16 では英文で示された内容が具体的に反映されたイラストを選ぶ問題。イラストが設問に入ったことは初めてであり新傾向と言える。まさに情報を整理して活用するという日常のコミュニケーシ

ョンに根差したものであり好ましい出題と言える。受験者にとっても読む「目的」が明確となり，それに応じた読み方で読解を始めることができる。

B　文化祭で英語部の出し物を考える上で，参考となるブログ記事を読み，必要な情報を読み取り，その内容を時系列で把握することなどが求められている。時系列に並べ替える問題は昨年も出題されており，読む目的が明確であり取り組みやすいと言える。 18 から 21 は時系列を問う問題， 22 ， 23 についても必要な情報を素直に探し出すことができ取り組みやすかったと思われる。ただし，ブログ記事の内容がややイメージしづらかった受験者もいたかもしれない。出題の形式は好ましいが，受験者が日常のコンテクストと結び付けることにコストがかかるものについては留意されたい。

第４問　複数の記事に示された事項についての概要や要点を読み取り，それらを結び付けて考えることが求められている。設問数は５問，16点の配点で昨年と同じである。一つ目の記事を踏まえて二つ目の記事が書かれている。それぞれの記事の内容を把握することはもとより，それらの互いの共通点や相違点などをつかむことが問われている。 24 は一つ目の記事の筆者の主張を把握する問題。 25 は二つ目の記事の内容を確認する問題。ここまではそれぞれの記事の読解を問うている。 26 ， 27 は一つ目の記事で指摘された学習法について，二つ目の記事がそれを自らの立場を踏まえて補完する内容として把握することを求めている。二つの資料の関連性を問うとても練られた設問であり，良問であると言える。 28 は双方の記事に共通している点を答えさせる問題。 29 は，二つ目の記事に続く内容として考えられるものを選択する問題であり，英文中に明確な記載があるのではなく，英文の内容から受験者が類推して読むことが求められている。読解において必要な姿勢を問う問題であり，第４問は自然な構成の流れがあり，とても良問と言える。

第５問　まとまりのある文章を読み，必要な情報を整理したり，時系列をまとめたり，文章から読み取れる内容を考えさせる問題である。設問数は５問，15点の配点で昨年と同じである。場面設定としてはディスカッションでの発表をするというものであるが，英文自体は体温を感じる物語風のものであり，今後もこのような英文が扱われることを期待したい。幅広い読解力を育成する，という意味でもこのような文章を読む機会は受験者にぜひ持ってもらいたい。 30 から 36 は，英文の内容をメモという形でまとめられた空所部分について答える問題である。 37 ， 38 はメモの“what we can learn from this story”という部分を答える形で，この英文から学び取れることを問うている。随筆文から主人公が学んだ具体的な事柄を言わば「抽象化」することが求められており，単なる英文理解ではない良問と言える。このような温かみのある物語文を介して，新しい学力観を反映した問題作成をすることにはご苦労があったかもしれないが，受験者がこういった英文を読む動機となるためにも，この出題の方向性は続けていただきたい。

第６問　説明的な文章を読み，それに示された事項についての概要や要点の読み取りを求める設問である。設問数は９問，24点の配点で，昨年度より設問が２問増えている。問題文と設問文を合わせると約2,000語に達し，文章の論理展開や流れを把握することを求められており，受験者にとっては相当な速読力と読解力が求められる。

A　「人が物を収集すること」に関して述べられている記事を読み，それを発表するためにメモを作成するという設定である。 39 から 43 にかけて，メモの内容に沿って英文の内容理解を問うものである。 41 ， 42 は「人が収集する理由」を答える問題であり，例示や他の話題も多く含まれた第２段落から第４段落までの概要を大きくつかみ，正しい選択肢を選ぶことが必要になる。メモに示されている理由の２つの空所に入る内容を答える問題であるが，空所に入る内容と，すでにメモに示されている理由，“interest in history”，“childhood excitement”等

が英文の流れに沿っているわけではないので，受験者としては英文を振り返る作業量が多く，時間がかかったかもしれない。

B　クマムシの生態に関する英文を読み，コンテストでプレゼンテーションを作成するという設定であり，そのプレゼンテーションのスライドの空所に当てはまる内容を答える問題である。正解へとたどり着くための作業量が多く，限られた時間で処理することが難しかったと言える。例えば，44 は正解を導き出すために，文章の広範囲に渡って選択肢の内容を確認しなければならない。英文が読めていても，この作業量で時間を費やしてしまう受験者が中にいたのではないかと思われる。思考力・判断力・表現力等を問う共通テストの問題作成方針を反映していることは理解できるが，44 のような問題の種の負荷については慎重な検討をお願いしたい。受験者の日々の学びにおいて，本来的な目標から，英文の情報を効率的に処理するという方向に注力してしまうようなことにならないようにお願いしたい。

3　総評・まとめ

本稿では2023年度（令和５年度）共通テスト「英語（リーディング）」（本試験）について検討してきた。大学入試センター発表の問題作成方針にも示されているように，「知識の理解の質を問う問題や，思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる問題を重視する」という方針での問題作成には，大変なご苦労と創意工夫が必要とされると拝察する。様々な資料や図表を通して英文を読み，知識・技能や思考力・判断力・表現力等を問う内容となっており，また，外国語に関する様々な知識を実際のコミュニケーションにおいて，目的や場面，状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付ける，という学習指導要領における目標を反映した出題となっている。受験者が身に付けた力を十分に発揮できる良問も多い。だからこそ，第２項でいくつか指摘したように，単に作業量が増えることによる負荷については，慎重な検討をお願いしたい。受験者がその種の問題の対応に過分に注力することは避けたい。さらに，今年は第５問で「随筆文」が登場したように，扱われる英文については，その題材や形式については幅広いものとなるように今後も検討をお願いしたい。そうしたことによって，教員の実際の指導や生徒の学びもより豊かなものになっていくと考えられる。

4　今後の共通テストへの要望

現状では，共通テストでは２技能を測定する試験となっている。令和７年度共通テスト試作問題「英語（リーディング）」では，「書く力」を問う側面も見受けられるが，共通テストで３技能がバランス良く問われるということは見通せていない。これは大胆な提案となるが，将来は英語リーディング試験をリーディングとライティングの２つの技能を測定する試験に，英語リスニング試験をリスニングとスピーキングを測定する試験に変更していくことを検討していただきたい。後者のスピーキングテストについては，多くの学校現場でタブレットを利用した試験が毎年実施されており，ＡＩ技術を利用すれば短期間で採点することも可能であろう。ＡＩを活用した音声採点システムの開発は進んでおり，複数のシステムを組み合わせることで偏りを排した採点が可能となるのではないだろうか。他の３つの技能の測定については，従来の方法に従い問題の構成を変えるだけで可能になる。外部試験の利用は評価基準が複数になり，異なる試験を同一の入学試験に利用することは公平性を担保する上で大きな問題となるが，共通テストで評価を一本化すれば全ての問題が解決されることは間違いないと判断する。

また，共通テストの得点については，少なくとも国公立大学への出願開始前に受験者に開示していただくことを強く要望したい。受験者は試験中に自らの解答を問題冊子に記録し，試験後は自己

採点を行い，そのデータを基に出願の作業に取りかかる。中には解答を転記し損ね，答案を再現する学生もいる。試験時間が足りない上に自分の解答を転記して，決して完全とは言えない自己採点を基に次の個別試験に向けて出願をすることは非常に負担が大きく酷なことだと思われる。得点を開示するまでにとてつもない時間を要することは想像できるが，あらゆることを合理化して何とか実現していただきたい。